

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	新潟県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	豊栄市立葛塚小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数 33
学級数	4	4	3	3	3	4	2	23	
子供数	104	99	100	117	104	129	7	660	

研究の概要

1. 研究主題

主体的に学び、基礎的・基本的な学力を身に付けていく子どもの育成  
～表現し、かかわりながら学ぶ子どもの育成を通して～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

3, 4, 5, 6年生・算数  
子どもの理解の状況に差が出やすい教科であるため。  
3, 4, 5, 6年生・国語  
子どもの学習に進度や関心に違いが表れやすいため

○学校として、国語科・算数科を重点教科として、設定したため。  
○3年生では、学校の指導段階として、4学年では、人数の面で、少人数での指導が必要のため。

(2) 年次ごとの計画

15年度

1 テーマ

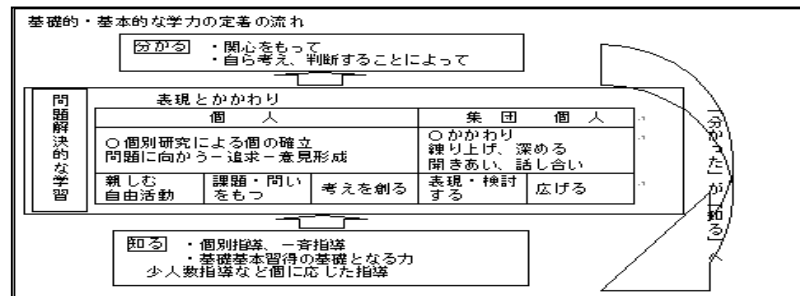
子どもたち一人一人が、自分の思いや考えをもつこと、そして、表現し、友達とかかわりながら学ぶ学習指導の中で、主体的に学び、基礎的・基本的な力を身に付けた子どもを育成することができると考え、その学習指導法の改善を図る。

2 研究の見通し

自らの考えをもち、友達とかかわりながら、自らの考えをより確かなものとしていく問題解決的な学習過程の在り方を工夫し、指導法や指導体制・指導形態、また基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る指導と評価をすることで、子どもたちが、分かる喜びを体感し、学び方を体得させ、基礎的・基本的な学力を身に付けると考える。

3 研究の内容・方法

本校では、子どもの基礎的・基本的な学習内容の定着の流れを次のようにとらえ、学習指導法の改善に取り組んできた。



(1) 問題意識に沿った

学習過程の中で、表現し、かかわり合いながら学ぶ指導方法を工夫する。

(2) 個に応じた指導方法や指導体制・指導形態を工夫する。

(3) 学習したことを定着させ、活用するための活動を工夫する。

子どもの実態、目指す姿、身に付けさせるべき学力、方策を明確にした、学力向上計画(国語科・算数科)を作成し、実践・評価をする。

一人一人が表現し、かかわり合いながら基礎的・基本的な学力を身に付けていく問題解決的な学習過程の工夫を、国語科・算数科を重点教科として実践を行う。

学習のねらいに沿った、習熟度別、課題別、コース別、等質少人数等、個に応じた指導・評価の工夫を行う。

学校運営活動との関連を図る。

- ・ 学習の発展、補充を図るパワーアップタイムを設置する。
  - ・ 全校体制による学習習慣の育成、日常活動の工夫を図る。
  - ・ 子ども・保護者の意識調査の実施とフロンティアだよりの発行を行う。
- 地域・中学校区での連携を図る。
- ・ 中学校との連携(問題解決的な学習・学習習慣の在り方・学習形態の工夫)を定期的に行う。
  - ・ 指導案検討・授業公開による職員の交流を行う。

## 16年度

### 1 テーマ

主体的に学び、基礎的・基本的な力を身に付けた子どもを育成するための学習指導の改善を図る。

### 2 研究の見通しと内容

- 他の子とかかわりながら、自らの考えをより確かなものとしていく問題解決的な学習過程の在り方を工夫する。
- 学習のねらいや身に付けさせる能力を明確にしながら、指導体制や学習形態を工夫する。
- 基礎的・基本的な学力の確実な定着を図るために、子どもの興味・関心に応じた指導法や評価を工夫する。

### 3 研究方法

子どもの実態、目指す姿、身に付けさせるべき学力、方策を明確にし、学力向上計画(国語科・算数科)を作成し、実践・評価をする。

一人一人が表現し、かかわり合いながら基礎的・基本的な学力を身に付けていく問題解決的な学習過程の工夫を国語科・算数科を重点教科として実践をする。

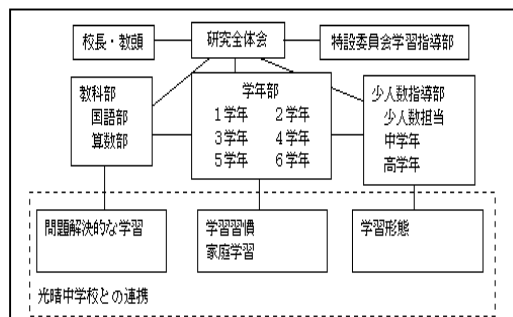
学習のねらいに沿った習熟度別、課題別、コース別、等質少人数等の学習の形態を工夫し、子どもの興味・関心に応じた指導・評価を行う。

パワーアップタイムの充実や全校体制による学習習慣の育成等、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図るための連携・強化を実施する。

地域協議会や各種広報活動を通して、保護者、地域、中学校区での学力向上の連携を図る。

### (3) 研究推進体制

- ・ 全学年を国語科と算数科の授業公開学年に分け、授業実践を行う。
- ・ 3学年以上では、担任と少人数指導担当職員を配置し、国語科・算数科でそれぞれ担任ともう1名の教員で授業を行う体制を組む。
- ・ 「特設学習指導部」は、全体の運営とともに、右の校内組織体制で、「問題解決的な学習」「学習習慣」「学習形態」において中学校との連携を図る。



研究連携校である光晴中学校と具体的な連携を図っているのは、次の点である。

- 学力資料の提示や授業公開を通して意見交換・協議を深め、連携を図りながら、中学校区として、子どもの育成に努めていく。
- 少人数指導についての保護者の意見を今後の学習指導に生かしていく。両校の共通質問項目を設定し、子どもたち、保護者の意識の把握に努める。
- 9カ年を見据えた学習習慣形成のため、意識・実態調査、光晴中学校と情報・意見交換を行う。

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

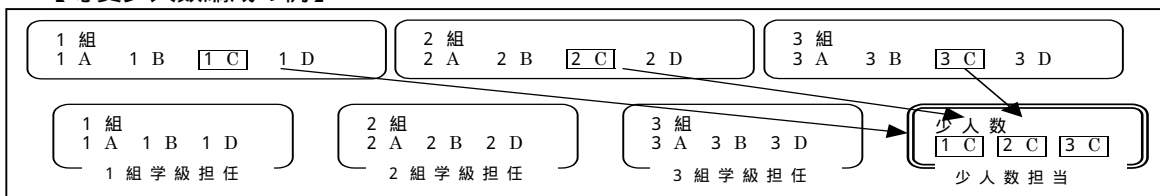
国語科授業実践を通して

- 3学年では、説明文教材について、習熟度別 コース別 課題別の学習過程で実践し、次の成果を得た。
  - ・ 単元最初に新出漢字等の言語事項を習熟度別編成において指導することにより、その定着が図られ、音読に対し、積極的な姿が見られるようになった。その結果、「読む」学習については、抵抗感なく、スムーズに学習を進められた。
  - ・ 現在の個々の力を明らかにした上で、目指す姿・身に付く学力を提示したコース「クイズにチャレンジ」「さあ！クイズを考えよう」「お話紹介クイズ」を自己選択させたにことにより、付けたい力をめあてとして、意欲的に取り組む姿が見られた。個々のめあての達成度は、よくできた...53% まあまあ...41% できなかった...6% である。
  - ・ 教材文を手がかりにしたクイズの活動を通して、要点やキーワードを自ら探し、的確につかみ、確かめ合うことができた。自分でクイズの答えを探すこと、また、クイズの問題を作ること、紹介する内容を考えたりすることに興味をもてたことが、主体的な「読み」を生み、段落の要点やキーワードの着目につながった。コース別学習の感想(101人中)は、勉強が良く分かった(29人) 楽しかった・おもしろかった(24人) 進んで発言できた(15人) またコース別学習をやりたい(11人) である。
- 1学年・5学年では、「書く」力を付けるために段階を追った学習過程とグループ学習を組み合わせることにより、自分の書きたい思いを明らかにし、意識の流れに沿った学習を進めることができた。

算数科授業実践を通して

- 等質編成を基本とする少人数グループの中で、自分の考えを確認し合ったり、よいよい方法を考えたりするとき、多様な考え方をする子どもがいることで、自分の考えを正し、また、より分かりやすい説明をしようとする姿が見られた。また、より少ない人数の中で学習することにより、分からないことへの教師の支援を受けやすく、自分の考えをしっかりとさせることができた。

【等質少人数編成の例】



- 1時間の学習の中に、グループでの「意見交換タイム」を取り入れたことで、学級の枠を越えた、慣れない学習集団の中でも、自分の考えを表現したり、また、友達の考えを聞いたりすることができ、自分の考えを確実に、よりよいものとすることができた。
- 一人一人の学習内容の定着状況に対応した、発展・補充を内容とする「選択コース別学習」では、教科書教材を内容とする補充中心のコースと新学習指導要領にはない「比例配分」を内容とする発展コースを学習の定着に合わせて自己選択することで、基礎基本を確実に身に付けさせるとともに、学習内容を深めることができた。

学習後の振り返りから、自己のねらいの達成度・感想・ワークテストの結果

	よい	まあまあ	あまり	全く
コース別算数は分かりやすかったか	51%	45%	4%	0%
コース別算数は楽しかったか	32%	52%	14%	2%
グループタイムで考えを表せたか	31%	45%	21%	3%
市販ワークテストの結果	100点	99~85点	84~70点	69点以下
	64%	29%	3%	4%

### 2. 今後の課題

- \* 1単元の中で、教えること・考えさせること・練習させることを明確にした指導計画を作成し、それぞれの意図に応じた指導体制を工夫すること。
- \* かかわりながら、多様な考えや意見を生む学習指導の在り方を工夫すること。
- \* 子どもの実態をもとにして、かかわることで高まる学力、求める姿、求めるかかわりを明らかにし、学習形態でねらう事項(習熟度編成や等質編成等でのねらい)を明確にすること。
- \* 数値では見えにくい学力として、興味・関心や思考・判断などの学力についての評価規準や評価方法

を工夫すること。

- \* 習熟度別、課題別、コース別、等質少人数指導の編成方法やコース変更への対応を工夫すること。  
学力把握のための学校としての取組

<ul style="list-style-type: none"><li>・ N R T学力検査 調査目的： 前年度の学習事項について定着の度合いを調査することで、学力の実態を探るとともに、指導の在り方を振り返り、本年度の指導に生かす。 実施内容： 2～6学年 国語科・算数科 時期： 毎年4月中旬</li><li>・ 県小研学習指導改善調査 調査目的： 今年度の学習事項についての定着の度合いを調査するとともに、定着の図られていない内容について、指導の在り方を振り返り、年度内での定着を図る。 実施内容： 4～5学年 国語科・算数科 時期： 毎年1月下旬～2月上旬</li><li>・ 子ども・保護者に対してアンケート調査の実施（学習に対する意識調査） 調査目的： 子ども・保護者の意識の様子を探り、指導方法・指導体制の改善を図る。 調査内容： 全校子ども及び保護者に国語科・算数科、少人数指導についての意識調査を行う。 時期： 7月中旬、12月中旬</li></ul>
---

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第1回豊栄・北蒲南部地域学力向上推進協議会 日時：15年 7月30日 14:00～17:00 場所：豊栄市中央公民館 対象：豊栄市・北蒲南部地域の小中学校及び教育委員会、保護者・地域住民 目的：15年度研究計画の概要説明</li><li>・ 15年度中間発表会 日時：15年10月24日 13:00～16:00 場所：豊栄市立葛塚小学校 対象：豊栄市・北蒲南部地域の小中学校及び教育委員会、保護者・地域住民 目的：授業公開及び協議会、15年度研究内容の概要説明</li><li>・ 第2回豊栄・北蒲南部地域学力向上推進協議会 日時：15年12月12日 14:00～17:00 場所：豊栄市葛塚小学校 対象：豊栄市・北蒲南部地域の小中学校及び教育委員会、保護者・地域住民 目的：15年度研究のまとめ説明 各校における学力向上の取り組みと課題についての協議</li><li>・ フロンティア便りの発行：15年7月、12月に保護者へ配布</li><li>・ リーフレットの発行：地域・保護者、地域内小中学校へ配布</li></ul>
---

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無